

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

# 地域医療連携便り

令和6年度  
第1号

<http://www.hosp.pref.okinawa.jp/nanbu/>

Please check the URL/link. 📌

〒901-1193

沖縄県南風原町字新川118-1

Tel:098-888-0123 (代)

FAX:098-888-1212 (地域医療連携専用)



## 当院の理念

こどもからおとなまで「大切な命を守り、県民に貢献する」病院



## 院長挨拶

今年度は、看護師の人員不足、医師の働き方改革など解決困難な課題と共に始まりました。とりわけ、看護師の人員不足は、未体験レベルへと達しています。加えて、診療報酬・介護報酬の同時改定への対応にも迫られますので、今年度は、例年にも増して多忙な1年となりそうな予感がします。私たち医療を提供する側には、人的資源も含め、限られた医療資源を「どのようにすればより効率的に活用できるか」ということについて、より一層思慮深く考えて行くことが求められています。難題の山積する時代、もはや、どのような医療機関であっても、直面する課題に単独で立ち向かっていくことは困難です。お互いの連携・協調の必要性が、今ほど強調される時期はかつて無かったような気がします。



院長 福里吉充

今年度、当院は、従来の7大機能（救命救急医療、高度多機能、小児医療、周産期医療、離島・へき地医療、精神身体合併症医療、臨床研修病院機能）に加えて、新たに新興感染症対策、災害医療拠点病院機能、移行期医療支援などへの取り組みを強化してまいります。これら全ての取り組みにおいて、皆様のご理解とご協力が不可欠であることは言うまでもありません。何卒、これまで以上の連携・協調をお願い申し上げます。

## ようこそ南部医療センター・こども医療センターへ



令和6年入職の研修医たちと指導医たちです。大変な毎日と思いますが、充実の2年間となることでしょう。成長を応援してますよ、



頼もしい専攻医達！  
それぞれの専門領域の患者と深くかわり、真摯に向き合う姿がカッコイイ☆



## 副院長挨拶



副院長 重盛康司

4月から副院長を拝命しました重盛康司と申します。東京生まれの東京育ちで、信州大学医学部を卒業後そのまま大学に残り、長野県で診療をおこなっていました。専門分野は放射線科で、画像診断（腹部骨盤領域）とIVR治療です。平成19年秋に沖縄県に移住し、以後沖縄県立北部病院と南部医療センター・こども医療センターを行ったり来たりとなっています。

当医療センターの使命はこどもからおとなまで、また南部地域の地域医療の提供のみならずへき地離島の診療支援・8ヶ所の小規模離島の診療支援・研修医の育成など多岐に渡るのですが、基本はやはり地域のみならずさまとの絆が大切と考えております。今後ともどうかよろしくお願い致します。

## 副院長挨拶

今年度4月より、看護の副院長として精和病院より転勤してきました。南部医療センター・こども医療センターには10年ぶりに戻ってきました。10年前とは大きく医療体制も変化し、脳卒中センター（SCU）やハイブリッド手術室などが増築され、また特定研修センターも設置されており、医療の質向上へ更なる取り組みなされていることに、新鮮さを感じると同時に役割責任の重大さを実感しているところです。数年後には精和病院との統合する計画も進められています。

新医療体制構築に向けて、医療の質向上を目指すとともに、誠意（まごころ）ある医療の提供に貢献できるよう尽力していきたくと思います。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



副院長 嘉陽晴美

## 医療部長挨拶



医療部長 宮里 均

この度医療部長兼内科部長として赴任しました。腎臓内科医として県立中部病院で研修後、宮古病院、北部病院、県立那覇病院、中部病院、八重山病院と全ての県立病院で勤務してきました。中部病院では急性期医療や移植などに関わり、八重山病院ではそれとは真逆のプライマリーケアの患者診療や行政と関わり透析患者を増やさないための試み、などに携わりました。コロナ禍でもありあまり身動きが取れず進展できなかったのは心残りでした。今回初めて医療部長という管理職となり、業務が多く、多岐に渡っていることに驚きました。臨床が忙しいから、臨床が面白いから管理業務はしたくない、と以前は考えていましたがもっと多くの臨床医が経験した方がいいのではないかと今は思います。皆の知らないところで謎に多くのことをやっていますよ。

病院業務以外ではやはり腎臓病進展予防に関わっていきたいと考えています。（CKD78というものがあります）石垣では少しですがエギングをはじめました。帰ってきてからはまだ行けていません。自己流なので下手だと思います、誰か教えてくれる方がいましたら よろしく願います。

# 看護師特定行為研修



令和5年度に厚生労働省より特定行為研修指定研修機関の指定を受け、令和6年4月からは2期生10名が受講中です。臨床経験豊富な精鋭たちです。「特定行為ができれば、患者さんの苦痛を軽減し、時宜を得た支援が可能になる」と考え、キャリアを切り開く覚悟をもって学びを深めています。



研修では「臨床推論」の思考過程に基づき、状態変化を予測しながら健康問題をアセスメントし判断する「臨床判断」のトレーニングをしています。



指導医たちとの演習やディスカッションの様子は、各人の思慮深さと医師へも対等に意見を伝えられる力強さがあり、とても頼もしいです。

## 出前講座について



ホームページに出前講座の告知があります。画面上段の「当センターについて」を選択すると、「出前講座」が出てきます。申し込み方法など確認できますので是非ご活用ください。お電話でも承ります。



## 市民向けBLS講習



当院の救急医や認定看護師もインストラクターとして多数参加している講習会です。今年度は救命士の採用人数が増えたことで、救急医とともに積極的に出前講座にうかがえます。クリニックや学校など、職場単位でも受講可能。認定看護師も同行し、相談やミニレクチャーを担当することもできますので、お気軽に地域医療連携室へご相談ください。

# この薬🍬粉碎してもいいの？

皆さんは「簡易懸濁法」という言葉を知っていますか？錠剤やカプセルのままだと薬が飲めない患者さんに対して行う投与方法で、「投与時に錠剤・カプセル剤をそのまま55℃のお湯に入れ、10分程度放置し、崩壊・懸濁させ、経管チューブを通過させる」と定義されています。

溶解する水の目安としては、シリンジに収まる10～30mL程度がよいでしょう。

また粉碎して粉の状態でも服用するのに比べ、以下のメリットがあります。

1. 投与直前まで錠剤・カプセルの状態でも保管でき、薬の効果・安全性が保たれる。
2. 薬剤の確認が可能。（粉碎すると元の薬が何か確認できない）
3. 粉碎した薬を乳鉢や薬包紙に付着させず薬剤量の誤差が減少する。
4. 調剤時や投与にかかわるスタッフを暴露から守る。

※ただし、なんでも溶かせばよいというわけではなく、溶けなかったり溶かしてはいけない薬もあります。（徐放性製剤や腸溶錠、抗がん剤など）



1回で吸い上げられる水量がおすすです。

シリンジゴムは熱で劣化します。別容器に55度の湯で溶かし、冷やしてください。



錠剤は原型のままでも溶けます。つぶさず放置で大丈夫です。手間を省きましょう。

参考文献



薬を飲ませる側も飲む側も安心・安全でいられるように、いつでも薬剤師へ気軽にお問い合わせください(^v^)



## 夏の風物詩

当院の敷地内には緑が多いのですが、手つかずのところもあります。木々が生い茂った敷地の一角へ、明るいパワーを期待して向日葵を植えようと計画しました。院長に許可を取り、外来看護師の有志で土地を整備（原野すぎで悪戦苦闘…）、苗を植えました。

さて、どの位の向日葵が咲いてくれるのでしょうか？元気いっばいな笑顔イメージする花ですよ。患者さんにもたくさん力を与えてほしいのでお世話がんばります。次回の報告もお楽しみに！

☀️成人外来看護師一同☀️

## 紹介・初診の予約・入院調整患者の紹介方法はホームページから



当院への紹介方法はホームページの医療関係の方へ、をクリックし患者様の紹介についてから閲覧できます。また、受診予約申し込み書・事前確認シートもダウンロード出来ます。

紹介の際は、当院地域医療連携室・入退院支援部門へ「診療情報提供書（紹介状）」「受診予約申し込み書」「事前確認シート」をFAXして頂くようお願い致します。（当院の外來への紹介の際は事前調整が必要となります）

FAXが届き次第、担当診療科医師と相談後直接患者ご本人と外來日の調整・案内を行っていきます。外來予約日が決まりましたらFAXで紹介元の貴院様へお知らせ致します。診療科によっては、1週間ほどお時間がかかることもございます。円滑な連携にご協力をお願い致します。なお不明な点は遠慮なく地域医療連携室へご連絡ください。

地域医療連携室・入退院支援部門  
看護師長 仲田朝子・富山鈴華



<http://www.hosp.pref.okinawa.jp/nanbu/>